

令和5年度 平取町総合教育会議（第1回）議事録

開催日時：令和5年8月7日（月）13時30分～15時10分

開催場所：平取町中央公民館 大会議室

出席者：町長 遠藤 桂 一

副町長 佐藤 和三

教育長 庄野 剛

教育委員 本間 稔 浩

教育委員 和田 与志男

教育委員 小林 明 美

教育委員 堀内 敏 明

津川総務課長	これより、「令和5年度 第1回平取町総合教育会議」を開会いたしますが、開会に先立ちまして、本日の会議につきましては、議事録を作成する関係上、録音させていただきますので、お手元のマイクのボタンを押してから、ご発言されますよう宜しくお願い致します。
津川総務課長	■1. 開会 それでは、ただいまより、「令和5年度 第1回平取町総合教育会議」を開会いたします。 始めに、遠藤町長から、ご挨拶を申し上げます。
遠藤町長	■挨拶 皆さんこんにちは。令和5年第1回目の総合教育会議ということでございまして、一言ご挨拶申し上げます。本日はお忙しい中ご参集いただきまして、ありがとうございます。日頃、教育行政等にご尽力を賜りまして、感謝申し上げたいと存じます。昨今の頃はまだまだコロナ、コロナで、学校の現場を始め、まだまだ混乱の状態続いておりますけれども、この時期になりまして、5類格下げというようなこともあり、やっとコロナ禍から解き放たれたという印象はありますが、現にコロナは結構、町内でも陽性者が出ておりまして、場合によって状況に応じて、引き続きの感染防止対策等も、お願い申し上げたいというふうに思っております。本日の総合教育会議でございますけれども、松田教育長になりまして、初めての会議ということもあって教育部局と町長部局の情報共有、忌憚のない意見を交わすというような場を、これからもお願いしたいというふうに思っております。子どもが少なくなるという状況の中で、教育の現場でも、いろいろ厳しい状況に、既に直面してるといふところでございます。今、町長部局も平取高校の存続に向けて、いろいろ取り組みを強化しているという状況でございまして、なかなか本当に課

	<p>題も多いというようなところもありますけれども、高校をとって言えば、高校の存続そのものが、平取のまちづくりの一つの大きなポイントといえますか、そういうものになるかなというふうにとらえまして、何とか町民の皆様を多く巻き込みながら、存続に向けて頑張っていきたいというふうに思っていますので、教育委員の皆様にも、そのところで、ご尽力をお願いしたいというふうに思っています。いずれにしましても、非常に、今後の町政運営、教育行政運営についても、課題なりが多い現状でございますので、この場でいろいろとまたご意見等もお聞かせいただきながら、今後の対応を図って参りたいというふうに思っていますので、その辺をお願いしまして、簡単ですけども、ご挨拶に代えさせていただきます。本日もよろしくお願いたします。</p> <p>続きまして、松田教育長からご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>津川総務課長 松田教育長</p>	<p>■挨拶</p> <p>本日は大変お忙しい中、皆様お集まり頂きましてありがとうございます。また日頃より、教育行政、或いは事業の推進、それから予算措置につきまして、ご理解とご配慮いただきまして、教育委員会として改めてお礼申し上げます。今日の総合教育会議ですが、町長、副町長の方には、教育行政の状況や課題について、随時報告しておりますので、特に今日、今までないものはないかと思えますけれども、行政の視点から、お考えやご意見を頂きまして、また教育委員の皆様と、意見交換を含めて、意思疎通或いは今後の方向性を見い出せたら良いなというふうに思っております。短い時間ではありますが、本日よろしくお願いたします。ありがとうございました。</p>
<p>津川総務課長</p>	<p>この後の議事進行につきましては、遠藤町長が議長となり会議を進めたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>■議事</p> <p>はい。それでは、よろしくお願いたします。レジメに沿って、進めさせていただきます。会議事項の(1)協議及び調整事項ということで、当面する教育課題等について、まず説明をお願いいたします。</p>
<p>松田教育長</p>	<p>(松田教育長より、会議資料に沿って説明)</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>今、教育長の方から、報告なり説明いただきましたけれども、何か内容等について、ございましたら発言をお願いしたいと思います。</p>
<p>本間教育委員</p>	<p>まず、最初に、学力向上対策の部分で速報が出ましたので、私も初めて今日これ見るんですけども、やはり小学6年と中学3年生の児童生徒が、非常に今年は良かったのかなというふうに、感想として持っています。基礎的な学力を身につけるっていう意味で、小学校の時からずっ</p>

といろんな先生に教えを請うてやられてきた結果なのと、それとあと、特に平中の今の3年生を見ていますと、非常に活発で、好奇心旺盛で、学習意欲がものすごい高いクラスなんですよね。学校訪問に行った時も、私たちが去年から見せてもらっていますけれども、クラスの中がものすごく良くて、友達同士がリスペクトをお互い持っていて、非常にいい学級だなんていう感想を持っています。当然の結果だろうなという予想はあったんですけども、やはりそこまで持ってくという部分に関しては、やはり小学校の学級経営等、先生の実力や、そういったこともあると思うんですけども、そういったことをずっと蓄積していくと、やっぱりこういう子ども達ができるのは、こういう理由だったんだろうなという必ず裏付けがあるんだろうなと思う。何が言いたいかっていうと、やはり教育長も良く言っていましたけれども、何が原因で、どうやったら、どうしたらっていうそういったプロセスを持って教えるっていうよりも、考えさせるとかそういった部分じゃなくて、とにかく教えて答えを言ったりして、子ども達にそういった学習指導が、何となく今の時代に合っていないのかなあと感じて、非常に危惧していたんですけど、この結果を見て、やっぱり時代は変わって子ども達も変わったのかなっていうか、そういった部分でいうと、とにかく、良かったなあっていう部分と、もう少し小学校の先生も、もっともっと実力をつけて、子どもの指導も、もう少し上手にやっていただくような方向でいっていただければなど。教育長は学校経験が非常に長い方ですので、そのノウハウもちゃんと心得ていらっしゃると思うんで、今後、そういった部分で、ますます平取のこういった子ども達の学習意欲も高まり、こういった成績も上がっていくような状況で行って欲しいなというふうに思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

和田教育委員

今も本間委員さんがおっしゃったように、私達、昨年、今の3年生本当にすごいなっていうふうに授業を見てても思っています、標準学力の今年のテストも高いんですよ。なぜ高いのかっていうのを、ちょっと見せてもらったら、非常に授業活発なんです。いろんな発語、発音がある。その中で、生徒さんたちの意見交換っていうのはすごい活発に行われている。やっぱり自分の思いを伝える、人の話を聞くっていう態度が非常にできているなっていうふうな学年だというふうに思っています。その中からやっぱり学びたいという意欲がすごい出てきているんじゃないかなっていうふうに思っています。ですから、今年のこの結果は初めて私も見ましたけれども、なるほどなというふうに思っています。もう一つは、7月に教育委員会の方で視察をさせて頂いたんですけ

	<p>れども、恵庭の恵の中学校の方に行かして頂いて、コミュニティスクールのお話を聞かせて頂いて、そのコミュニティスクールの話でも、やはり地域との関わりっていいですか、各学校だけの小さいチームだけではなしに、まず地域を含めた中で、その学校をもっと活発に、先生方も生徒さんたちも、もっともっと、このコミュニティスクールっていう中で、開かれた学校にしていこうという意欲が非常に見えて、勉強になったなというふうに思っています。ですから、平取町の方も本当にコミュニティスクールも含めて、開かれた学校というものを目指していきたいなというふうに私は感じさせていただいて、視察させていただきました。以上です。</p>
小林教育委員	<p>皆さん、順番にいろいろ言うて頂いたので、違うところで思っていることを言わせてもらおうと思うんですけど、平取小学校、平取中学校は本当にずっと見てきて、割と学校としても落ち着いているし、子どもたちも落ち着いているんですけども、その中で行く機会は少ないんですけども、振内中学校の子ども達の人数が少なくなって、来年度から複式っていうことで、教育長も先ほど、不安のないような形でっていうふうには述べられていたんですけども、それってすごく大変なことだと思うんですよね。子ども達、何も不安がないことはないと思うんですけども、なんかその辺がやっぱり中学生って思ったときに、平取中学校で見てる子ども達の活動の仕方とか、友達との関わりとか先生との関わり、そういうのを、本当は体験させてあげたいなっていうのが、一番思うところです。ただ、この先、決まって動いてることなので、子ども達には本当に、教育って、みんなが平等じゃなければいけないので。そういうところでやっぱりやってみなきゃ分かんないですよ。今、みんなで幾ら良い方に、良い方って話しても、やっぱり子どもも違うので、また来年度になって先生の体制も変わってくるってなると、その時にまた動いていってあげなきゃならないなっていう、ちょっとこっち側としての不安もあります。あともう1点なんですけど、今わくわく自然体験スクールが中止になったというふうに聞いたんですけど、本当は、こういう時期の子ども達のこういう体験ってすごく大事なので、場所を変えてでもできれば、何かやらせてあげたいなっていうのがちょっと思ったところです。以上です。</p>
遠藤町長 松田教育長	<p>はい。どうですかね。 まず複式に関わって、僕も自分で経験したことないということで、実際の二つの学校を見に行かせてもらったんですけど、一番印象に残ったのは、各学校で校長先生等に聞いたんですけど、榎法華（とどほっけ）は、一</p>

	<p>年生2人、2年生0、3年生3人、そしてさらに3年生の1人が不登校になっちゃって4人だと、そういう状況で、丸瀬布は大体同じような10何人ぐらいの学校なんすけれども、どうですって話を聞いたら、いや、特に親も子どもも現状に満足していますと、今の学校で困ることはない、ということなんだというような部分があったですね。それで今回も振内中学校の子どもたちにも直接話を聞きたいということで、これはからちょっとお話しさせてもらう機会を作るんですけども、おそらく今の子ども達は、振内中学校に不満を持っているかという、おそらく満足していると思うんです。それは大規模校を知らないからだと思うんです。それで、多分今話し掛けても、予想されるのは、今、振内中学校で大丈夫ですって回答がかえってくると思うんですけども、もしやるとすれば、今話し合いの方でも仕掛けているのが、親たちの方に、統合賛成の人たちに、少人数の良いところあるんだよ。大人数の良いところあるんだよ。と、逆に統合に反対の人たちにも同じことを説明して、親たちに自分たちで気づかせていくような取組をやっていってるつもりなんです。子ども達についても、例えば平取中学校との交流をやるよと言ったら、「いやいや、いいわ」っていうふうな感じになると思うんですよね。ただそこを如何にして、経験させるって仕掛けていくってことがやっぱり各校にやっていかなきゃならない部分だというふうに思いますので、その辺も含めながら、今、小林委員が言われたようなことも考えながら、また進めていこうというふうに思っています。それからあと熊の方は、まさかの展開で、こんなふうになると思っていませんでしたので、これからまた別の事業立ち上げてというのは少し難しいと思いますので、来年度、今年こういうこともあるんだという反省を含めながら、場所も含めてまた検討していきたいと思いますので、またよろしくお願ひしたいと思います。以上です。</p>
遠藤町長	<p>はい。他に何かありますか。ちょっと私からなんですけれど、部活動の地域移行ということで、今、現状としてはどうなのですか。うちの実態としては、技術的なものを習得する場として、スポーツ少年団とかそういうところが担っている部分っていうのが多いんですか？</p>
松田教育長	<p>今、うちについては社会体育的でやってるのが、剣道と柔道ですね。あとは学校単位の部活動としてやっていますね。</p>
遠藤町長	<p>そういう実態を、学校の考えとしては、極力、学校外に求めていくっていうことでいいですか？</p>
松田教育長	<p>僕もこの話が出てきた時に、日高地区の中体連の会長をやっていた、まさにその中にいたんですけども、最初、なぜこれが出てきたかという</p>

	<p>と、いわゆる先生方の働き方改革。中学校の部活の部分が、もう過労死の部分までいってるといようなことで、マスコミ等に政府がボンボン叩かれて、そのあとスポーツ庁に政府の方から指示与えて、部活を何とかしろと。それで、いわゆる全国中体連の方にスポーツ庁の方から、すぐやれと。実はもう今年から、令和5年度から、もう完全に中学校の部活はやめろと。全部、社会体育に。地域に任せるといような、強引な乱暴なことがあったんですが、ただその世論の部分の中で、だんだん少しブレーキ掛かりながら、それで今は、働き方改革っていう部分は、全くワードは消えて、今は生徒減少により、単独で部活ができなくなったので、いわゆる社会地域へ持っていけといような、よく分かんないような理由になっているんですよね。ただ、受け口を考えてみると、大都市でお金があるところは、完全に一般企業に任せて、そこに指導者を派遣して、もらうといようなシステムをとっているところは聞いてるんですが、平取町も含めてうちぐらいの町の規模になると、指導者が平日の4時から6時までというのは無理な状況がありますから、他の地域の状況を見ながら、どういうことが可能で、それからまた今、上の方もぶれているんですよね。令和7年度、8年度までに土日も含め完全に部活を止めれといふようになっていたんですが、今は部活動指導員とか外部指導者を入れれば、教員の負担が減るからいいんじゃないかとか、かなりぶれているんですよね。少し動向を見ながら対応していく必要があるのかなといふふうに思っております。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>はい。他よろしいですか。はい。協議調整事項については、また最後に何かあればお聞きしたいと思いますので、よろしく願います。それでは次、報告事項ということで①の「町内小中学校の現況について」説明いただきます。</p>
<p>松田教育長</p>	<p>(教育長が資料により説明。)</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>今の説明に関しまして、何かございますか。私からなんですけれども、今、うちも、実態として、不登校の生徒も、この表を見るというわけなんですけれども、現実にそういう子に対しては、学校としてはどういう対応をするのですか。</p>
<p>松田教育長</p>	<p>それで今、不登校の状況って書かれてるところに書かれてあるのですが、大体三つぐらいのパターンがあります。和田さんもスクールカウンセラーやられていてあれなんですけど、まず引きこもりって言われているような、お家から出れない子がおります。それから家から出るんですけど、学校に入れない。それから、学校に入れるんですけど、教室に入れないと、この大体三つぐらいのパターンなのかなといようなこと</p>

であります。原因がやっぱりよくわからないんですけど、家庭環境の問題、或いは発達障害の問題、或いは精神疾患を持っている子もいます。それで家庭環境なんですけれども夫婦関係が良好でないですとか、特に親と子の関わり方、特に母親の影響が大きいと思うんですけども、なかなか自立できていない子っていうのは、数字的に多いと思います。学校で何かあって、普段であれば、ちょっとぶつかっても立ち直れる能力を持っているんでしょうけれど、その前に親が全部やっちゃって、もう1回やれると覚えちゃって、それまで来れなくなってしまうと。そしてまた今、家の中も、飽きない要素がたくさんあると。ゲームですとか、YouTubeを一日見れば飽きないというような、そういうような環境も変わってきますし、そんなようなことがいろいろあると思います。あとは発達障害。今こういうような子たち。それから精神疾患も、今実際にこういうようなことが実際に出てきていますけれども、この中で、各学校は休み始めたら、まずはタブーなのが、休んでいる子ども達って、学校に来ないことが非常に悪いことだと、そういう罪悪感を持っているんですよね。だから、よく見ますと、普段みんな学校行ってる間は家から出ないと。ところが土日は家から出れるんですよね。あと休み中は出れるというパターンが多くて。だからその子たちに対して、頑張れ頑張れと言って、これはもう子どもは頑張っているから、ますますプレッシャーを与えるようなことになるということで、そういうこともできないですし、だから何が原因になっているかを、やっぱり保護者や子ども、学級とかの様子を、聞きながら、原因を探すんですけども、専門的な部分になっていくと、僕らが教員生活で経験してきた部分だけではないので、やっぱり専門家の、ご意見をもらいながら、原因を確かめて、或いは学校に来て、別室登校ができるようになったと。その時非常に機嫌が良いので、じゃあ、教室に入ってみようかってという言葉掛けも、なかなか僕たちの判断だけでは難しい。やっぱり専門家のカウンセリングを受けている先生に、どうですかねって話したときに、「今、いけますね」とか、「いやちょっとまだストップですね」とか、そういうような助言をもらいながらやらないと難しいというところです。だから今、実際にやっているのは、ある期間は休んでいます。そしたら、月曜日から金曜日にたまったプリントを担当が家庭訪問して渡して、顔を見てきて帰ってくると、もうそれだけのことしか出来ていない状況です。そのような状況の中で、何とか、これぐらいの数のうちだと囲まれる状況もできると思うので、なんとかしてあげたいなというふうに思っております。もし、そういうソーシャルワーカーがいたら、町に、「何とか雇ってくれ」

<p>遠藤町長 松田教育長</p>	<p>って言ったら、「いいよ」って言うてくれるのかどうか、そこら辺どうなんでしょうか。なかなかいないんですけどね。どうなんでしょうね。</p>
<p>松田教育長</p>	<p>いや、そうでしょうね。こういう、結構、特殊な仕事ですよ。通常は社会福祉士とかがやられるんですよ。公認心理師ですとか、あとは学校心理士とか、そういう方もやってることなんですよ。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>社会福祉士なんかも、うちも別の職場で非常に不足しているところで、なかなか来ていただけないところもあるんですよ。ただ、もちろん、こういう状況を打開していくそういうところで、その人材が必要だということであれば、町としてももちろん予算措置とか、そういうのは、十分検討させていただきますし、こういう子どもって、やっぱり学力的に落ちちゃうんですよ。当然。</p>
<p>松田教育長</p>	<p>そうですね。それでやっぱり子どもも何で行けないのかわからない。ただ親は、一緒にいて、学校に行かない、朝は起きてこないと当然イライラもしてきますよね。勉強が遅れるし、それで勉強やらせるのに、学校やらせて下さい。っていっても、多分その子はやらないんですよ。それどころじゃないっていう状況で。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>たださっきの、うちの状況ばかりじゃなく他の自治体さんの状況を聞くと、もう対応できるような数ではないんじゃないですかね。だからそういった人材を配置するとか、そういうのも大事なんですけど、もっと根本的な対応策が必要な気がしますよね。どうしたらいいんだろうね。</p>
<p>和田教育委員</p>	<p>対応策の選択肢はたくさんあった方がいいと思うんですよ。その中で、スクールソーシャルワーカーは、本当に私は早く入れて欲しいなっていうふうに思っています。なぜかというやっぱり子どもたちの困り感は、親の困り感なんですよ。親の困り感を取ってあげると、子どもも元気になるんですよ、本当に。その中で、親の困り感は何かという福祉なんですよ。福祉関係。自分の生活状況であったり、仕事の面であったり、本当ににっちもさっちもいかない。その中で子どもに当たったりイライラしたりする。それを子どもは全部受けてしまいますので、学校に行かなくなったり、ひきこもり、不登校になったりするっていう原因があるわけですよ。そうすると、やはり親の背景、その生活状況を見る、これはスクールカウンセラーではなく、スクールソーシャルワーカー、社会福祉士を入れた中で、しっかりと見ていくっていう方が、子どもにとってもいい影響を与えると私は思っています。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>これは一時期、不登校でもやっぱり、きっちり学校に通えるようになるという生徒も、もちろんいるんですよ。その切っ掛けは、こういうやっぱりソーシャルワーカーとか、先生とか、そういう後押しっていうの</p>

<p>松田教育長</p>	<p>が大きいんですか？</p> <p>いや、これは分からないんですけど、もう全然来れない子でも、学校で、いろいろ接触して、いろいろ対応しているんですけども、全然来れないんだけど、ある日突然来れるんですよ。これが分からないんですよ。ただ、その中にはきっといろいろ関わり方は違うと思うんですけども、誰かかれか、親ももちろんそうですし、関わった中で、突然っていうのが。これは、もうちょっと専門家じゃないので、全然良く分からないんですけども。実際に不登校になって、学校に行けなかったんですけど、今実際に先生やってる方もいらっしゃいますし、そういう子たちの気持ちが分かるので、何とかしてやりたいと。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>よくなんか、テレビなんかでも、いわゆる結構社会的地位が高いような方で話をしていると、私も不登校でしたという方も結構いるので、そういうのが将来的に、何か支障になっていっていない人もいるんだと思うんですけど。</p>
<p>本間教育委員</p>	<p>経済的な解決ができれば、案外ぽっと立ち直ることも、自分でアルバイトができるようになったり、お金を稼げるようになると、なんとなく、ポッと変わる時ってあると、自分もそうだったんだけど。やっぱり親から、お小遣いを貰って、欲しいものもあるけれど、時期がどうしても、あれなのかな。自分のこと考えてだよ。周りの同年代のそういったことを、先ほどから言っている経済的な部分でいうと、失礼だけど、母親だけとか、父親だけとか、別れてしまったとか死に別れたとかっていう部分も、原因の一つとしてはあると思うんですけども、こんなこと言ったら怒られるけど、子ども自身が辛抱ないし、なんかやってやろうっていう気持ちもないのかなあ。何かハングリー精神というか、我々が小さい頃とは、ちょっと様子が違うし、YouTubeもあの頃なかったし、とにかく外で友達と遊んでいた。だから、会えば悩みも言えたし、いや俺、こう、こう、こうなんだって。そしたら、あんまりそんなこと考えるとか、子どもなりのコミュニケーションがあったと思うんですよ。今、そういったコミュニケーションも全然なくなってきたっていう部分でいうと、先ほどからおっしゃるように、そういった専門的な知識を持った方を入れて、この子はこういうのがちょっと足りないな、こういうふうにしていこうよっていう、個々の子どものカリキュラムっていうか立ち直る道筋を立ててもらってっていう部分でいうと、やっぱりそういう人っていうのは、いた方が良さなっていうのはずっと思っていたんですよ。経験ある我々が幾らこう言ったり、ああ言ったりしても、なかなか子どもには響かないし、言うことも聞いてくれないし、そうい</p>

遠藤町長	<p>った部分で何とか、いい人がいればね。1日でも早く来てくれればいいなあと思っています。</p> <p>今、本間委員の発言もありましたけれど、我々、不登校なんていたかどうかは、ちょっと記憶にないぐらいなので。だから、なぜ、子どもが行きたくないというようなことを、ある意味で受けとめるというか、昔なら何言ってるの。行っておいで！っていう感じなんだけれど。そういう時代だったんだよね。そういう社会では、段々なくなってきているというか、受けとめてどうしようみたいな、そういう社会になって来たんですかね。それは決して悪いことじゃないかもしれないですね。</p>
和田教育委員	<p>今は待てないんですよ。もうとにかく親は早くご飯食べなさい、早く学校行きなさい、早く帰ってきなさい、早くお風呂に入りなさい、早く寝なさいと。早く早く早くなんです。待つということは、今、本当に親御さんもできてないので。子どもがもう学校行かないとなったら、いいよっていう親御さんはまずいないですね。なぜと。なぜで無しに、待つということ、もう1年でも、2年でも、それはもう大変ですよ。その家庭にとったら大変かもしれないけれども、子どもは今サナギの状態だと思って、殻を破るのは本人しかできないので、自分の意思でいくということができないので、本当に親をはじめ、いろんな方達が関りますけれども、無理やりに学校に行かせようとしても、またすぐに戻ってしまうので、そうではなしに、待つということも、本当に親御さんを含めた中で、感じていかなければ、子どもさんたちは、早く、早くの世界から脱しれないというふうに思います。</p>
遠藤町長	<p>より具体的なある程度マニュアル化みたいなものになっているんですよ？対応としては、こうやるんだって、各関係機関との連携みたいなことも。</p>
松田教育長	<p>そうですね。それで緊急性あるところについては、一応連携取りながらやっているんですけど。これ教頭先生が中心にやってるんで、やっぱ大変ですね。</p>
遠藤町長	<p>本当にスクールカウンセラーの設置とか、さらにさっき和田委員からも、ありましたけれど、地域での大人の悩みみたいなものが、子どもに反映するところが大きいと思うんで、併せて、そういったものへの対応みたいなのを考えるのが、良いのかなと思います。ぜひ来年のと言いますか、予算化に向けて、いろいろと検討させてもらって、人がいるかというのもありますが、お願いをして。</p> <p>他に何かございますか。よろしいですか。それでは次に町長部局になりますけども、町内保育所の運営等についてということで、こちら側から、</p>

<p>保健福祉課 松島課長 遠藤町長</p>	<p>ご報告させていただきます。 (資料 3 について説明。)</p> <p>今、町内の各保育所の児童数の実態と、へき地保育所についての今後の進め方について、説明をさせていただきました。何か、この辺でご意見等あればと思います。この方策会議に、お二人も出て、色々と本当に子どもが少ない中で、へき地保育所の規則が 10 名という一つの線を引かなきゃならないというのがあって、意外にへき地保育所ってニーズがあったんだなっていうところで、保育料無料化になった時に、もっともっと、大きなところ。うちで言えばバチラー保育園に集中するのかなと思ったんですけども、そうでもないっていうのは。小規模保育所での良さみたいものを感じている親御さんの方が結構いたということなので、一つの対応策としての線引きを、ちょっと下げたというようなところもあるんですけど、今の実態としては、紫雲古津なんか非常に厳しい状況かなというふうに思っているところです。</p>
<p>和田教育委員</p>	<p>一ついいですか。バチラー保育園に通ってる保護者の方から、お話をお伺いしたんですけども、隣のバイオマスから出る煙が、かなり出ているらしいんですね。外で遊ばせるときに、園児達はその煙を吸ってしまうので、健康について心配なんだっていうお話は、多々あるんですよ。1 人ではなくて、多々聞いているので、その点、ちょっとまた協議していただいて、どうするかっていうことをちょっとお話いただければなというふうに思っています。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>一度止めて検査して、再稼働する時に煙が多量に出るような事もあるんですけども、通常ですと、ほとんど気にならないような状況なんですよ。基本的に木を燃やしているということだけなので、有害物質等はあるという施設ではないんですけども、隣に在って、ポーポー煙が出ると、気になるところもありますので、その状況を再度改めて把握しまして、例えば多く出さなきゃならないような時は、閉園している時とか、子どもがいない時にやるとかそういうのも考えさせて頂きたい。まず状況を把握させていただきます。</p>
<p>本間教育委員</p>	<p>只今、へき地保育所の閉所のお話だったんですけども、常設の振内或いは貫気別、あと二風谷の法人が運営している保育所があるんですけども、今後、先ほどから言われている通り、児童数が少なくなってきた、今後どうするんだっていうことだと思えるんですけども。先ほどから松島課長が言ったように、そろそろ平取の方針をっていうお話を冒頭にされてましたように、これからどうしていくのかっていうことを、町長部</p>

遠藤町長	<p>局でもいろいろとお考え頂いて。我々の希望としては、地域に残して欲しいっていうのはありますし、あと貫気別、振内、平取っていうような3地区にっていう希望もありますけれども、いよいよ経営ができなくなると、やはりどうしようもなくなるので、いろいろな方法があれば、そちらの方法でっていうこともありますし、存続させるっていうことであればそちらの方法もっていうことで、いろいろと内部で協議していただいて、保育所をどういうふうにしていくんだっていうのを、もう少し具体的にお話し頂ければなと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>まさに、今、言われた通りのことで、この見込み数等を見ても、中々経営的に厳しい状況で、うちの場合、民間に経営を委ねているというようなところもありますので、いつも園長さんから、もうさっきもありましたけど、貯金を食い潰したら、、という話も出ていて、ただ保育所に関しては距離的な条件ってあるのかなっていう気はしてまして、例えば、0歳児とか、バスに乗れない子もいますけれども、1・2歳児を長時間、バス等に載せて集めてくるというのは、ちょっと無理なところもあるかなと思いますので、ココとココは残して、非常にニーズが減っても、また経営が厳しいというような状況があっても、町としては、子育てっていう視点から、色々支援していくような事を考えざるを得ないかなという気もしております、ただ本当に厳しい状況だなということは、考えています。</p>
松島課長	<p>紫雲古津で説明会をやったんですが、やっぱり学校とセットなんですよ。どうしても、今後、本間委員さんからありました通り、振内、二風谷、貫気別をどうしていくかってなった時に、保育所だけの問題じゃないっていうことも、ちょっと皆さんには理解して頂きながら、良い方向をと思います。どうしても残すとなると、町の財政的な支援っていうのが出てくるかなっていうふうには考えますけれども、できるだけ良い方法を考えたいと思います。よろしく願いします。</p>
遠藤町長	<p>他、いかがですか。宜しいですか。はい。それでは、平取高校の魅力化に向けた取り組みについて、報告させていただきます。</p>
まちづくり課 福島主幹 遠藤町長	<p>(資料4について説明。)</p> <p>はい。今、説明を致しましたけれども、これについて何かございますか。今、地域連携校と呼ばれる高校。いわゆる平取高校は、静内高校の分校みたいなものなんですけれど、道内に28校だったと思いますが、ありまして、同じような悩みを抱えていて、1回目のフォーラムでも色々</p>

	<p>研修をしたんですけれど、高校が無くなることによる地域としての非常に大きな損失。人口だけでなく、将来にわたっても続いていくような、損失が大きいというふうなことで、やっぱり平取高校で勉強したいというような高校づくりも、不可能ではないんじゃないかという想いといたしますか、考えに立って、何とか来ていただけるような高校づくりをするということで、道教委の協力もあって、令和6年から全国募集というところまでいきました。全国で参加している高校はどれくらいあるのかな？</p>
福島主幹	<p>100校以上あります。1グループが5校から6校ありまして、一回の説明会で8～9グループぐらいが同じ時間帯で同時に実施する感じです。</p>
遠藤町長	<p>1回目の合同説明会を平取もやって、見ていましたけれど、色々なプレゼンで、プレゼンの良し悪しで、来る来ないというのものもあるのかなと思うところもあるんですけれど、結構、平取は良い線行っていたのかなと思うんですけれど。今、1名だけ関心を持っていただいている。</p>
福島主幹	<p>はい。そのオンラインの説明会、各グループで集まって、6分間説明っていうのがあるんですけれども、それとは別に、各学校で個別説明会というのを設けているんですけれども、そこに、平取高校に関心を示して、来てくれた方が1名いらっしゃるんですけれども、話を聞くと、平取町の方に、おじいちゃん、おばあちゃんがいるということで。どなたかは分からないですけれども、そういった理由でちょっと興味を持って聞いて頂いたということがありました。</p>
遠藤町長	<p>それでやっぱり内部進学率は、今、もう30%を切っているというところなので、例えば、部活をしたいとか、そういうことで、この高校を選ぶというのは、人数がいなければ出来ないものについては、もうどうしようもないところがあるのかなっていうのもありますが、まずそういった色々な意味で、内部進学率を上げるような努力も、合わせてやっていかなければ駄目だなと思っています。ある胆振の学校で、結構な人数がいるんですけれど、ほとんど町外の方で、今、内部進学率は学区内で1人しかいないとかで、それで高校の魅力化を図ろうと言っても、なかなか町内が1人しか行かないような高校に、町が肩入れするのかなというように、そんな議論にもなっているところもあるようなんですよね。非常に難しいところもあるのかなと思うんですけれども。</p>
本間教育委員	<p>正直、アイヌ文化って、そういうのって、魅力あるのかなあとちょっと思っ。小さい時から、ずーっと親しんで来たので、他の人ってどう思っているのかなあと思っ。どうなんでしょうね。</p>
遠藤町長	<p>中学生あたりがどういう感じで見ているか分からないところもあるんで</p>

	<p>すけれど。最近、平取町に来てくれるような年齢層を見てても、以前とは違ってきているところもあるのかなと思っていて、アイヌ文化に対するイメージみたいのが、ちょっと違うふうにとらえてくれる世代が、増えているんじゃないかっていう気はします。いわゆる自然に共生したような文化っていうのを、今、そういう時代になりつつあるのかなっていう気もするので、そういうのと絡めて文化を学習できるようなものになればというふうに思っているんですけども。ただ、中々、全国の中学生がそれを見て、あそこに行こうって思ってくれるかどうかというものはあるんですけども。ただ、ゴールデンカムイの影響はすごくあるんですよ。</p>
<p>本間教育委員 福島主幹</p>	<p>手ごたえ的には、1人は関係者かもしれないけれど。 実は、中学生の保護者の方を対象にしたオンラインの合同説明会というのを、私たちは4月から開始したんですけども、実は6月に第1回目がありました。道教委の公表があるまでは、6月の合同説明会に参加できなかったんですよ。地域未来留学のプラットフォームさんの方にお話を伺うと、やはり第1回目に、ほとんどの参加者が集中しているという状況で、7月、8月と時期が遅くなればなるほど、どんどん参加者が少なくなるという状況らしいです。こちらとしては、その6月の説明会に参加できなかったというところが、大分不利な状況にはなっています。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>何か、他にあれば。いかがですか。</p>
<p>和田教育委員</p>	<p>中学校3年生の意向調査がこれから始まると思うんですけども、父兄の方はどうですか。福島さんの感覚では。</p>
<p>福島主幹</p>	<p>私、今ちょうど中学3年生の子どもを持つ保護者なんですけれども、僕から見た雰囲気としては、非常に、令和6年度の入学で平取高校を選ぶ子どもたちというのは、非常に少ないだろうという危機感は非常に持っています。また今回、全国募集という形で、町として始めましたけれども、7月のオンラインの説明会に参加した手応えとしても、非常に厳しいなど。やっぱり登録校が100校以上あるということで、他の高校と、どのようにして差別化を図っていくかということ考えた時に、アイヌ文化で、どれほど、子どもたちに興味を持ってきてくれるかっていうのが、まだまだ、浸透するには時間かかるかなというふうには、正直思っています。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>他に、プレゼンを見ていても、特に、ココは凄いなみたいな、インセンティブというか、引きつけるものがあるなっていうのは、なかなかないような気がしたんですけども。</p>
<p>本間教育委員</p>	<p>例えば、奥尻高校のスキューバダイビングとか、そういうのがあるとね。</p>

遠藤町長	<p>静内農業高校が、馬で、全国で有名になっているんですね。今、第1回目ということで、高校の、特に校長先生も色々汗をかいてくれて、こちらも如何にサポートするかで、試行錯誤しながら、現段階ではやっている状況ですので、いろいろ今回の状況なども把握しながら、次に向けてというようなところも考えていますので、何かとご協力頂くところがあるかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、その他ということで、今後の総合教育会議の開催について。</p>
津川課長	<p>例年、この総合教育会議、年2回開催させて頂いておりました、通常であれば、12月に開催をしておりますので、次回も、大体その時期に開催をしたいなということで考えていますけれども、お諮りいただければと思ひます。</p>
遠藤町長	<p>はい。よろしくお願ひいたします。それではその他、何か皆様方からあれば、お聞きしたいと思ひますけれども。今まで通して、何かココを聞き忘れたという事でもあれば、一緒に出して頂ければと思ひますけれども。いかがですか。よろしいですか。</p>
遠藤町長	<p>■閉会</p> <p>それでは今日が第1回目ということで開催させて頂きましたけれども、いろいろと今日、聞いた中で、スクールカウンセラー等の問題もありますので、ぜひ、これも新年度に向けて、実現できるかどうかも含めて、いろいろ考えさせて頂きたいと思ひます。こういった情報共有の場を頻繁に持ちたいなというふうに考えていますので、今後ともよろしくお願ひして、終了とさせて頂きます。本日はどうもありがとうございました。</p>